

手術センター(手術部)

1. スタッフ構成(2025年3月時点)

- 大谷 広美(消化器病センター長、手術センター長、手術部長、改善推進室長補佐、クオリティマネジメント室長)
- 渡部 早人(看護長)
- 看護師:57名
- 臨床工学技士:1名
- 看護補助者:2名

2. 認定資格取得(2025年3月時点)

資格名	資格取得者
日本看護協会手術看護認定看護師	渡部早人、今井幹也
日本麻酔科学会周手術期管理チーム認定	渡部早人、久保真奈美、松永佳余子、西坂厚志、近藤諒太

3. 運営方針

- (1) 患者さんに安全で、安心できる手術を提供します。
- (2) 地域の基幹病院として、高度で先進的な手術に対応する機能を備えます。
- (3) 高度救命救急センターおよび総合周産期母子医療センターを有しており、常に緊急手術に即応できる体制を整えます。
- (4) 人、物、設備を効率的に活用し、安全で円滑な手術室運営を行います。

4. 実績

4階の中央手術部内に手術室が15室(うちバイオクリーンルーム対応手術室2室、アンギオ対応ハイブリッド手術室1室、ロボット支援手術用手術室2室)、5階の産科病棟に緊急帝王切開用の手術室が1室あります。

いつでも緊急手術に即応できるよう、手術部看護師および麻酔科医師が24時間常駐しています。

2024年は2023年同様COVID-19関連の手術枠制限は行われませんでした。しかし、働き方改革への対応や、看護師不足による入院病床数の減少により、自主的に総手術件数を制限せざるを得ない状況が継続しています。2024年の総手術件数は7,664件と、2023年の7,722件と比べわずかに減少しています。一方、近隣病院も働き方改革への対応に追われているためか、救急患者を当院に委ねる事例が増えており、緊急手術数については、2024年は1,402件(18.3%)と、2023年の1,308件(16.9%)と比べ増加しています。限られた総手術件数の中で、当院の責務である救急医療、高難度手術に取り組んだ結果であり、地域の基幹病院としての責務を果たすべく腐心しています。

四国最多の手術件数を安全かつ効率的に行うために、電子化された業務フローやPFI事業に伴う民間委託業者との業務提携を活用しています。また、医療コンサルタントによる分析も取り入れながら、さまざまな運用改善に取り組んでいます。

当院の特徴として、高度救命救急センターおよび総合周産期母子医療センターを有しているため、緊急手術が多く、超高齢者や重篤な合併症があり極めて状態の悪い患者さんなど、リスクの高い(生命に関わる危険性が高い)手術が多くなっていることが挙げられ

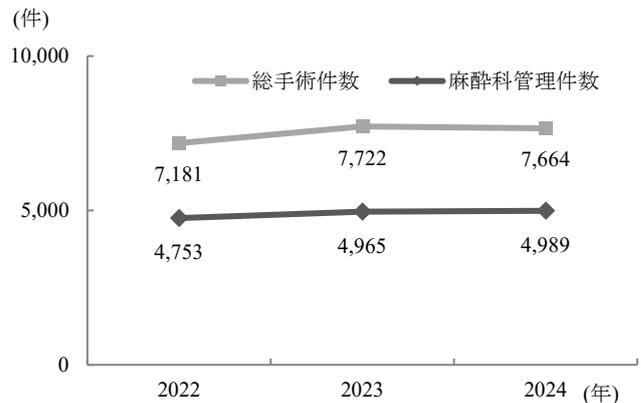
ます。一刻を争う患者さんがドクターヘリで搬送され、直ちに緊急手術となることもあります。

また、当院ではハイブリッド手術室を使用したTAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)や大血管のステントグラフト内挿術、ロボット支援手術、ナビゲーションシステムを用いた精密手術、高難度肝胆膵腹腔鏡手術、内視鏡を用いた低侵襲手術等、最先端の手術を積極的に行っています。2020年3月には、2台目の手術支援ロボットが導入され、増加するロボット支援手術に対応すべく、手術室も1室増設されました。

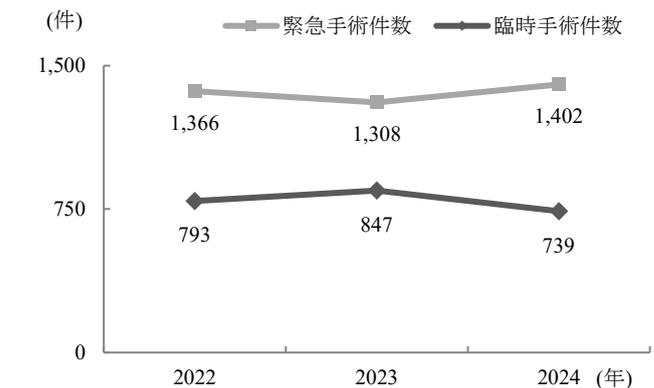
またCOVID-19に関連し、排煙装置等のサージカルスモーク対策や運用マニュアルの整備等、手術室内での感染防止対策を強化すると同時に、当院に求められる地域基幹病院としての責務を果たすため、感染状況に応じて、手術枠制限、解除を能動的に行い、緊急手術、高難度ハイリスク手術遂行機能を維持しています。手術室の柔軟で効率的な運用を進めており、学会出張による未使用枠の情報共有など、限られた手術枠の有効活用を図っています。

患者さんに高度で安全な手術を提供できるよう、医師・看護師・臨床工学技士等さまざまな職種のスタッフが協力して、手術室運用業務の適正化に取り組んでいます。

■ 総手術件数、麻酔科管理手術件数の推移



■ 緊急手術件数、臨時手術件数の推移



■ 総手術件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	2	1	1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	8
循環器内科	12	14	10	10	11	11	11	16	13	15	11	18	152
小児外科	11	4	14	12	5	10	10	12	10	11	11	8	118
消化器外科	109	102	103	111	116	128	125	134	117	121	106	115	1,387
乳腺・内分泌外科	27	24	27	26	27	28	24	32	27	29	26	22	319
呼吸器外科	11	8	16	14	16	14	21	20	13	17	12	12	174
整形外科	104	119	113	123	107	89	116	101	104	100	105	97	1,278
形成外科	41	42	53	40	34	37	43	30	39	45	38	43	485
脳神経外科	21	24	22	25	35	35	26	24	19	21	22	25	299
皮膚科	2	5	3	7	2	3	5	4	5	5	6	3	50
泌尿器科	70	70	77	65	81	69	76	73	64	74	79	69	867
婦人科	27	33	32	31	31	30	37	35	24	36	27	25	368
産科	22	31	25	26	33	35	30	21	26	28	38	30	345
眼科	67	72	85	80	79	79	69	71	75	90	86	81	934
耳鼻咽喉科	35	34	38	36	36	31	36	40	31	41	32	30	420
麻酔科	3	4	3	3	2	5	4	3	2	5	4	6	44
歯科	2	2	2	3	0	0	1	2	2	2	1	1	18
心臓血管外科	37	31	28	34	40	28	37	38	27	33	33	32	398
合計	603	620	652	646	656	633	672	656	598	674	637	617	7,664

■ 麻酔科管理手術件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	2	1	1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	8
循環器内科	12	14	10	10	11	11	11	13	13	15	11	15	146
小児外科	11	4	14	12	5	10	10	12	10	11	11	8	118
消化器外科	89	90	94	96	96	117	109	118	101	105	93	98	1,206
乳腺・内分泌外科	21	23	25	23	26	24	21	26	23	27	23	19	281
呼吸器外科	11	8	16	14	16	14	21	20	13	17	12	12	174
整形外科	70	75	75	83	78	60	74	69	61	66	66	69	846
形成外科	16	13	20	10	18	15	19	13	15	14	12	16	181
脳神経外科	13	19	16	22	25	26	23	20	14	17	21	18	234
皮膚科	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3
泌尿器科	31	30	30	27	32	25	29	30	26	29	25	27	341
婦人科	24	29	29	27	31	26	34	31	22	28	24	23	328
産科	18	26	22	21	27	29	25	16	22	22	33	26	287
眼科	2	2	2	3	0	1	2	0	0	2	2	4	20
耳鼻咽喉科	30	28	33	33	35	27	33	36	30	36	30	25	376
麻酔科	3	4	3	3	2	5	4	3	2	5	4	6	44
歯科	2	2	2	3	0	0	1	2	2	2	1	1	18
心臓血管外科	34	30	28	34	36	26	33	37	26	32	31	31	378
合計	389	398	420	422	439	417	450	447	380	429	400	398	4,989

■ 非麻酔科管理手術件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
循環器内科	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	6
消化器外科	20	12	9	15	20	11	16	16	16	16	13	17	181
乳腺・内分泌外科	6	1	2	3	1	4	3	6	4	2	3	3	38
整形外科	34	44	38	40	29	29	42	32	43	34	39	28	432
形成外科	25	29	33	30	16	22	24	17	24	31	26	27	304
脳神経外科	8	5	6	3	10	9	3	4	5	4	1	7	65
皮膚科	2	5	3	6	2	3	5	3	5	5	5	3	47
泌尿器科	39	40	47	38	49	44	47	43	38	45	54	42	526
婦人科	3	4	3	4	0	4	3	4	2	8	3	2	40
産科	4	5	3	5	6	6	5	5	4	6	5	4	58
眼科	65	70	83	77	79	78	67	71	75	88	84	77	914
耳鼻咽喉科	5	6	5	3	1	4	3	4	1	5	2	5	44
心臓血管外科	3	1	0	0	4	2	4	1	1	1	2	1	20
合計	214	222	232	224	217	216	222	209	218	245	237	219	2,675

5. 2025年度目標

- (1) 救急患者の手術に対応した柔軟な業務体制を構築し、手術待機期間のさらなる短縮を目指します。
- (2) 不足している手術枠をいかに効率的に運用していくかにつき、さらなる対策を進めていきます。
- (3) 術野映像の取り扱いにつき、セキュリティ向上に努めます。
- (4) クリニカルインディケーター等の臨床評価指標を基にして、手術業務の改善・効率化を図ります。
- (5) WHO 手術安全チェックリストを用いて手術に関わる全職種で情報の共有を行い、より安全な手術を目指します。
- (6) 手術室内での感染防止対策を徹底し、COVID-19 を含む感染症流行期においても、安全に手術できる体制を強化していきます。